

一般質問の概要

平成25年第4回 二宮町議会定例会

○12月11日（水）午前9時30分～

（近藤行宏、桑原英俊、三橋智子、脇 正文 各議員）

○12月12日（木）午前9時30分～

（小笠原陶子、浅賀一伸、根岸ゆき子、神保順子 各議員）

※両日とも2番目以降の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。

No	質問予定議員	質問概要
1	近藤行宏 議員	自主防災組織育成と防災対策について （放映件名：自主防災組織育成と防災対策について） 二宮町では、24年12月に全面的に、二宮町地域防災計画の見直しを行い、これまでの計画を修正した「二宮町地域防災計画」を策定。 自主防災組織の育成の中で、自主防災組織の活動をサポートし、「自助」「共助」の体制を強化していきます。また、災害時応急活動の地域での役割を果たす自主防災組織の機能強化・充実を図りますと、謳われています。 そこで、 1. 20地区の自主防災組織を同レベルに高める工程表なりを作成し、目標を決めて拡充強化を推し進める考えがあるのかを伺う。 2. 平成23年度地区長研究会で報告された「自主防災組織の強化策」24年度、地区防災研究会、両報告書にある提言をどう捉えているのか。 3. 教育・訓練について、防災指導員・防災組織員に対し、講座・講習・教育訓練の充実を、どう図っていかれるのか。 4. 情報共有について、担当課と一体となった活動ができる体制の構築はどうされるのか。 5. 自主防災組織の拠点と成り得る、防災コミュニティセンターの設置数は妥当なのか。以上、5点について伺う。
2	桑原英俊 議員	子どもの発達段階に応じた町の子育て支援について （放映件名：子どもの発達段階に応じた町の子育て支援） 【概要】 平成25年度を「子育て元年」と宣言した二宮町では、定住人口の確保に向けた計画達成の為、新しい部署の設立やプロジェクトが発足しました。 定住人口を確保する為には、子育てを社会・地域・家庭といった大きな枠で考え直さなければいけません。 虐待や家庭と学校のトラブル等、厳しい社会情勢の中において、二宮町として子育て支援をどの様に進められていくのか。 【要旨1】子ども育成課について 新設された子ども育成課の職務目的についてお答えください。 【要旨2】子ども・子育て会議について 「子ども・子育て会議」の具体的な進め方と「子ども・子育て支援事業計画」をどう考えているのかをお答えください。 【要旨3】二宮町における児童虐待の実態について 大きな社会問題となっている児童虐待について、二宮町の実態についてお答えください。 【要旨4】定住促進のための事業について

		二宮町定住促進行動計画（子育て編）における各施策（そだれん・ファミリー・サポート・センター、小児医療費助成の拡充）の進捗状況についてお答えください。 【要旨５】図書館の活用について 社会教育サイドにおいて、子育て世代が魅力を感じる図書館に向けた取り組み状況をお答えください
3	三 橋 智 子 議員	町の野良猫対策を問う （放映件名：町の野良猫対策を問う） 地域の不幸な野良猫を減らそうと、活動を進めているボランティア団体は全国に多数ある。二宮町では団体は組織されていないが、個々に活動されている方が何人かいて、近隣の平塚市や小田原市、大磯町などのボランティアと連携をとっている。 主な活動は地域にいる野良猫を保護し、避妊や去勢手術を施し、また同じ地域に戻して、一代限りの命を全うさせてあげようとするものである。地域に帰したあとは、定点・定時でのエサやりをし、フンの後始末を行う。その他にも里親探し、不適切なエサやりをしている人への説明、周辺のパトロールなども行っている。この一連のシステムは、地域から野良猫をなくし、地域環境の改善を目的としている。また人間の勝手な考えや行動で、無責任に不幸な猫を増やさないという動物愛護の観点にも立っている。 こうした活動の過程で、周囲の住民に理解されず、反感を持たれることもあるようだが、地道な対話を重ねることで、徐々に誤解も解け、理解者も増やしている。野良猫の数も着実に減らしているという実績もある。 それをふまえて以下５点の質問をする。 ① 二宮町における野良猫被害の実態はどうか ② 「地域猫」という考えをどのようにとらえているか ③ 町内で野良猫対策をしているボランティアへの対応はどうか ④ 猫の避妊・去勢に対する助成は考えているか ⑤ 動物愛護管理法の精神は町の事業にどのように反映されているか

4	協 正 文 議 員	葛川の治水・水害対策の取り組みについて問う （放映件名：葛川の治水・水害対策の現状と進捗状況は） 第5次二宮町総合計画基本構想のまちづくりの方向性の中で、防災対策の向上を図るとし、地域防災計画治水対策では、今後の河川改修は、河川管理者と連携し、緊急性を勘案して、下水道施設や雨水流出抑制施設の施策と合わせて総合的な治水対策を推進するとしている。また、治水対策(2)浸水想定区域における避難の確保として、洪水ハザードマップを活用し、浸水の危険性を周知徹底するとともに、災害発生時に速やかに避難するよう、予め啓発に努めるとしている。 これらのことに対し、葛川の治水・水害対策について、現状と、町の取り組み、進捗状況について問う。 1. 治水対策として ① 避難判断水位を超える水量に対する治水施設や雨水流出抑制施設等の対策について伺う。 ② 現在の護岸にはつい最近改修されたものから、改修後数十年経ったものまでである。決壊とはならずとも、近年のゲリラ豪雨時の水量や流れの勢いに対し護岸の破損等住民の不安は増すばかりである。これらに対する護岸改修や護岸強化、築堤し堤を高くするなどの対策について伺う。 ③ 集中豪雨時等においても、流量を確保でき、橋・橋桁等を守ることができるための対策として、川底の浚渫、繁茂する植物対策等河川工事について伺う。 2. 水害対策として ① ゲリラ・集中豪雨時等における県または近隣町との情報共有について伺う。 ② 塩海橋南側に設置されている水位観測カメラからの情報活用について伺う。 ③ 中井・大磯・二宮の3町合同で県に要望することの取り組みについて伺う。 ④ 地域防災計画、災害応急対策計画では、避難対策として、災害時に安全・迅速に避難が行われるよう、地域内の避難場所、避難指示方法を予め住民に周知するとし、総合防災訓練などを通じて、自主防災組織と防災訓練などを通じて、自主防災組織と協力して避難場所への避難訓練や避難所運営訓練を行うとしているが、総合防災訓練等では風水害に対する避難訓練は住民に浸透していないと思われる。これに関し、現在の住民への啓発が不十分であると思うが、町はこれをどのように捉えているか考えを伺う。 ⑤ また、葛川水系浸水想定区域図を見ると、ゲリラ豪雨時には、指定されている一時避難所に行くことが出来なかったり、使えない施設もでるなど、住民が混乱することが予想されると考えるが、対策をどのように考えているのか伺う。 ⑥ ゲリラ豪雨時では、住民を安全・迅速に避難させることができるようにする為に避難指示は、何時、どのように発令し、どのように伝えるべきか、考えと対策について伺う。
---	-----------------	--

5	小笠原陶子 議員	図書館運営費用確保のために、同じ生涯学習予算枠であるふたみ記念館の運営方法を見直し、予算配分を変えるために両館のあり方と今後の対策を問う （放映件名：図書館とふたみ記念館の現状と対策を問う） 1. 図書館について ① 図書館に対する住民の期待と要望は大きい。二宮町に住まいを求め、遠距離通勤で働いて、税金を納めてきた世代が、定年退職になっている。文化的で豊かな老後を、この二宮町でゆったりと過ごしていただきたい。そんな高齢社会の二宮町だからこそ図書館の充実が求められている。図書館は、単なる貸本屋ではない。図書館の本来の目的は、図書館法に規定されている通り、「国民の学習に対する多様な需要を踏まえ、これに適切に対応するために必要な学習の機会の提供及びその奨励を行うことにより、生涯学習の振興に寄与することとなるよう努めるものとする」ことである。ラディアンに図書館ができて、13年になるが、まだ当初の住民の期待に応えきれていない。例えば、読書会は定期的に開催されているが、研究会、鑑賞会、映写会、資料展示会等を主催し、これらの開催を奨励することがはたしてできているのだろうか。 ② 司書は、本の整理をすることだけが仕事ではない。司書の能力を生かし切れていないのに、人員削減ありきで良いのか。 ③ 図書館の運営について。土日の開館時間の延長を望む声がある。土曜日か日曜日の片方だけでも、開館時間を遅らせて、閉館時間を延ばすことができないか。また、年末年始の休館期間が長く、学生やお勤めの方々のニーズに対応できていないが改善できないのか。図書館運営費用確保のために、同じ生涯学習予算である、ふたみ記念館の運営方法を見直し、予算配分を変えるために両館の在り方と今後の対策を問う。 ④ ITふれあい館と連携した事業が実施できているのか。 2. ふたみ記念館について ① ふたみ記念館の来館数は伸びているのか。 ② ふたみ記念館のボランティアは、どのような仕事をしていただいているのか。 ③ ふたみ記念館管理運営事業費は25年度予算581万4千円。ふたみ記念館ができた年から、図書館の図書購入費が大幅に減っている。生涯学習予算のパイは、限られていて、相関関係がある。図書館の充実のため、ふたみ記念館の開館日時削減を提案するが、町の考えを伺う。
6	浅賀一伸 議員	二宮町の保育について （放映件名：二宮町の保育について） 1. 児童福祉法にてらせば、保育園の待機児童は出てはならないと考えるが、町の現状はどうか。 2. 認定保育施設は、県が「一定の基準を満たしている良好な施設」と認めている。認定保育園で預かってもらう場合には、補助金が出されるようになっている。町外の認定保育園に預けた場合、町は補助金を出しているか。

7	根 岸 ゆ き 子 議 員	予算編成に対する事業の優先順位の考え方について （放映件名：予算編成に対する事業の優先順位について） 予算編成方針が公開されるようになって2年目となる。今年度以上に厳しい財政状況の中で、総合計画にもとづき重点施策を進める、とある。それをふまえて、来年度の考え方について伺う。 ①環境と風景が息づくまちづくりの中で積極的投資をしてきた日帰り観光、二宮ブランド、風致公園の整備がある。町としてこれらの事業の展開と推進に、どのように予算配分を考えているのか。 ②重点的事業に予算配分の比率が高まると、当然減らすところも出てくる。福祉や文化の分野が減らされると懸念しているが、来年度予算ではどのような方向性になるのか伺う。
8	神 保 順 子 議 員	2015 年介護保険制度改正をふまえて今後の町の高齢者福祉を支えていくために （放映件名：町の高齢者福祉を支えていくために） 1) 2012 年介護保険改正では高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられることに重点をおき、介護と医療を一体としたサービスの提供や地域包括支援センターの充実が求められ、市町村が主体となって行なうこととなった。 しかし一方では、現在厚生労働省では増加していく介護給付を抑制するための制度の見直しをすすめている。社会保障審議会介護保険部会では自己負担の引き上げや要支援者を対象から外し、生活援助サービスなどを段階的に市町村に移行することなどが検討されている。高齢化が深刻化していく二宮町で今後、高齢者福祉をどのように支えていくのかが大きな課題となってくる。町の見解を伺う。 2) 現在の介護保険改正時では「介護予防・日常生活支援総合事業」のなかで、地域の N P O やボランティアを活用したサービス提供ができることになっている。さらに今回の見直しのなかでも要支援者はボランティアなどを活用した市町村の事業で対応することが検討されているが、町の現状と今後の課題を伺う。 子宮頸がん予防ワクチン接種後の町の取組みについて （放映件名：子宮頸がんワクチン接種後の取組みについて） 平成 23 年 1 月から町では子宮頸がん予防ワクチン接種を全額補助で行なった。また本年 4 月より予防接種法の規定により定期接種化されることとなったが、ワクチン接種に対する副反応の事例が全国的に多発し、厚生労働省では専門家会議を立ち上げ、一時、全自治体に対し、積極的な接種勧奨を中止することとなった。 その後、文部科学省よりワクチン接種に関連した状況調査を中学校で行なった ①現在の接種状況について伺う。 ②副反応による事例報告の状況について伺う。 ③教育委員会が行なった状況調査の結果について伺う。 ④この症例を受けて、ワクチン接種後の追跡調査を行なう自治体が出てきた。県内においても鎌倉市や大和市が調査を行なうことを決めたが、二宮町でも行なうべきと考えるが町担当課の考えを伺う。